

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社 SEIFUKUSHI		
事業所名	グループハウスおよりの郷Ⅱ		
所在地	長崎県島原市鎌田町丁4133番地		
自己評価作成日	令和4年12月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどか、のんびり、ゆったり の理念に基づき、入居者の方々の個性を尊重し、一人ひとりが自分らしく生活して頂けるように支援していくことをモットーとしております。共同生活の為ある程度の制限があるかもしれませんが出来る限り皆さんが、自由に、自分らしく、生き生きと暮らせ、人生の楽しい思い出になるよう心より応援したいと考えております。かつ家族の皆様とのコミュニケーションを大切にして、家族的で優しく暖かな介護を目指して頑張っております。それに加え、池端町内会の会員として地域活動に励んでおり、そのお陰で安中地区の方々や市、公民館との繋がりが増えました。令和2年度からCOVID-19が継続して流行したおかげで、感染防止対策としてWebの利用が増え、研修や面会等に活躍しています。町内や地区の活動も戻ってきました。今後も感染症対策をしっかり行い、入居者様、職員と地域に根ざして頑張っていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、眼下に有明海を望む閑静な住宅地に立地している。理念に「のどか・のんびり・ゆったり」を掲げ、管理者をはじめ、全職員が入居者を中心としたケアの実践に努めている。管理者はホーム所在地の町内会に在籍し、町内会の行事(市民清掃や新年会)や地域で取り組む自然災害の避難訓練などに参加するなど、地域に密着し、地域との良好な協力関係を構築している。コロナ禍の影響により、学校からの職場体験の受け入れや、地域の保育園、小中学校との交流は自粛しているが、オンラインを活用した面会や研修参加ができるよう工夫し、感染状況を確認しながらコロナ禍以前のような地域交流を計画している。介護の経験豊富な職員が多く在籍し、職員個々の判断力や決断力が優れ、管理者からの信頼も厚く、職員がが自主的に業務を遂行し、また、働きやすい職場環境にあるため、職員と入居者の笑顔があふれているホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者とスタッフが業務に取り組む心構えを基本として、理念を作り上げた。その理念に基づいてサービス提供が出来るように、毎月のスタッフミーティングで唱和確認している。	ホーム設立時より「のどか・のんびり・ゆったり」の理念を毎月のミーティングで唱和し、共有と振り返りを行っている。入居者の要望を把握し、入居者を中心としたケアの実践に向けて職員全員で話し合いながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会とは継続的に会員として参加しているが、新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19とする)の影響で中止や感染症対策をした上での開催参加となっている。現在、町内会の方々から古新聞を提供してもらっている。	ホーム自体が町内会の会員となっている。管理者等が市民清掃や新年会に参加し、地域との良好な関係を構築している。コロナ禍前には地域ボランティアや学校の職場体験の受け入れを行っており、管理者は、コロナ収束後には地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れていたが、令和2年度よりCOVID-19感染防止の対策で、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表や家族の代表、駐在所の方にも参加して頂き、入居者様の近況や活動内容の報告だけでなく、参加者の方々からの質問や意見を頂き取り入れるものは取り入れ、こちらからも情報を発信している。COVID-19対応で施設隣の公民館を借りて開催する事にしたが、感染拡大の為、書類のやりとりで対応している。	現在、運営推進会議はコロナ禍にて書面会議となっているが、会議の構成委員との意見交換は随時行っている。議事録は、会議の構成委員以外にも、入居者家族、関連グループ事業所へ配布し、運営状況の透明化を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	COVID-19対策で、市町村や県等の研修がWebになったので参加したり、問い合わせをしたりしている。介護保険課だけでなく市民安全課や市福祉事務所等と連携しているCOVID-19クラスター対応時は、保健所に相談して指示を頂いた。	市町村への問い合わせに関しては、当法人の方針として本社で取りまとめた質問を行うこととし、各現場へフィードバックされている。生活保護の対応や、市主催の研修会への参加など、日頃より連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の研修で学び、何かあればスタッフミーティングで対応できるようにしている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催して指定基準における禁止対象となる具体的な行為の周知を図り、職員全員で身体拘束をしないケアの実践に努めている。入居者を観察して行動を把握し、情報を共有する事で、職員同士が協力し、入居者のペースに合わせてゆっくりと声掛けしケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	およびグループの身体拘束廃止委員会の研修会で学び、学習の成果をサービス提供につなげ、何かあればスタッフミーティングで対応できるようにしているが、現在COVID-19対策で各事業所単位で実施中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市等主催のWeb研修会に参加し、知識を深め関係を広めている。現在、2人の方が日常生活自立支援事業を利用されている。成年後見制度については、島社協と協力して1人の方を支援予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、機会があれば説明し、改定の時もできるだけ早くから情報を伝え理解を深めてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見希望があれば相談し出来るだけ添うようにし、苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明も行っている。	職員は、入居者との普段の会話を通して要望や意見を伺っている。コロナ禍による面会制限もあり、家族とは電話でのやり取りが主となっている。家族からは特段要望等の申し出が少ないのが現状であるが、ホームから家族へ提案するなど工夫しながら入居者・家族の意見の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	COVID-19対応で年1回の全体会議が無かった。現在、必要に応じて施設長会議を行っている。また、各事業所ではその都度意見交換をし、反映するようにしている。	職員と代表者が個別に面談する機会は設けていないが、日頃の業務の中でその都度相談できる環境である。業務に関する相談は、毎月のミーティングで話し合い、改善することで働きやすい職場環境に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、経営者・管理者が個別面談を行い、相談等を行い実践している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Web研修等に参加し、経験にかかわらず教育等を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	既存のネットワークに、Web研修等々を利用して他機関の職員との交流を積極的に図り、強化・活用に努めている。令和2年度よりCOVID-19で直接会う事が減り、少ない機会を活かすようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インタビュー時より家族等の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の簡単な業務(洗濯物たたみや新聞折り等)を共同作業という意識を持って行っている。また、本人様が希望する呼び名で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行い、インターネットやFAX、郵便を利用し、情報のやり取りをしている。が、COVID-19が流行してからは、電話、FAX、eメールと郵便で行っている。Zoomでの面会も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかたが来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにし、その時写真撮影をし居室内に掲示することで再認識できるよう努めていた。面会はCOVID-19対策で、窓越しかZoomで対応している。島原半島をドライブしたり、施設周辺を散歩し記憶を刺激している。	入居者の友人や家族などの馴染みの人との面会はコロナ禍により窓越しやWEBを活用して行っている。外出計画を立て、ドライブで本人の馴染みの場所に寄るなど行っている。編み物など本人が入居前から行っていた趣味活動も継続してできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている。問題が発生したときや発生が予想される時は、席やテーブル配置等を検討し対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、親身になって応じる旨伝えている。退所後、勤務先の同僚を紹介して下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示等困難な方には、アセスメントや日々の様子等で感じた事や訴え等に共感する姿勢で本人の気持ちを汲むよう心掛けている。	入居時に入居者・家族より情報を収集し、入居後は職員と入居者との日頃の会話の中でその方の思いや意向の把握に努めている。家族の意向は電話にて聞き取り、収集した情報は連絡ノートに記載し、職員全員で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケアプランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援し、その後も情報を収集し改善している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、連絡帳、申し送りや主治医等との連携等を活用して継続的な支援が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見や職員の意見等を、ケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめ、ケアプランに反映している。	介護計画は日中用と夜間用を分けて作成することで入居者への詳細な支援内容を立案し、より適切で統一されたケアの実践に繋げている。職員を入居者毎の担当制としない事で、全職員が全ての入居者を担当していることを意識して介護の実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努め見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した場合は、モニタリング後ケース会議を開催して問題解決に努めたり、島社協や包括支援センターと連携して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネット、運営推進会議や町内会活動、地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの医療機関やご希望を伺い連携を取り、入所後の連携構築と維持に努めている。通院時の結果の報告にも取り組んでいる。	入居後、これまでのかかりつけ医をホームの協力医へ変更する事も、入居前のかかりつけ医を継続する事もできる。病院の受診には職員が同行し、受診結果を家族へ報告している。ホームは日頃よりかかりつけ医との連携を図っており、入居者・家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と情報を共有して必要な情報、気づき等を担当医師へ表(バイタルや排泄、食事摂取量等)にし伝え、誰が付き添っても十分な治療、処置を行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている。通院時に、医師や看護師等との関係作りもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族と書類にて同意を頂き、常勤看護師や医師とも情報の共有を行っている。主治医からの情報で、ご家族に現状を伝え、今後について順を追って話しながら対応している。ご家族もそろって、最期をみとられた事例もあった。	ホームは常勤の看護師を配置している。看取りに関する指針を整備し、職員は看取りに関する研修会へ参加し体制を整えている。経験豊富な職員が在籍し、ホームで看取りができるよう専門職や協力医と連携を図り支援している。令和4年7月には訪問看護事業所と連携し、看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命法の講習を積極的に受講していたが、現在COVID-19対応で講習会が行われていない。令和3年5月AED導入して、操作講習会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災については、消防計画をもとに消防訓練を行っている。自然災害については、市民安全課や消防等の防災機関と連携をとり、地区の避難訓練には毎年参加している。地震、津波等災害に応じた計画に雲仙普賢岳溶岩ドーム崩壊が加わり、市民安全課の力をかりて避難計画書【自然災害対策編】を作成し、訓練を行っている。	近隣の地域住民に消防士や消防団員がおり、緊急時には応援してもらえるよう協力関係を築いている。毎年当該地域で自然災害に対する避難訓練を実施されており、ホームも参加し地域との協力体制を築いている。	必要時に持ち出す入居者の情報リストの保管場所が複数となっている為、有事の際に迅速に持ち出せるよう再検討することが望ましい。ハザードマップを職員だけでなく入居者や来客者も確認できるよう掲示場所を工夫することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケアプランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけ、プライバシーへの配慮も行い自尊心も保たれるよう心がけている。	毎月のミーティングで入居者への支援方法等を話し合い、必要に応じて職員同士が声掛けや注意し合いながらケアを実践し、入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。接遇は対面による対応だけでなく、電話応対も同様に注意している。定期的に研修を行い、接遇マナーの徹底に心がけている。	共用トイレは来客者も使用する可能性があることから、入居者の氏名や尿取りパッドなどは他者が目にしないよう配慮することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように理念に基づき努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、その人その人の好みに合った身嗜みの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安全に食事が出来るように、個人ごとに適した状態をつくり、職員全員が心がけている。介護度が上がり、食事介助が増えた為、職員は一緒に食べれない。	管理栄養士が作成した献立表をもとに、入居者の咀嚼・嚥下機能やアレルギー、嗜好を考慮し、ホームで食事を作って提供している。湯呑み用のコップは入居者の馴染みの物を使用し、誕生日にはケーキを提供するなど、本人の嗜好を尊重し、楽しみのある食事が摂れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事をその方が食べられる状態に手を加え提供し、水分もムセや好みに対応し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている。歯垢歯石等については、歯科と連携して対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。トイレへの誘導等が必要な場合はチェック表をもとに適切なタイミングで気持ち良く排泄されるよう心がけている。	入居者毎に排泄をチェックして、間隔や排泄パターンを把握することで職員はスムーズに声掛けや誘導を行っている。職員ミーティングにて入居者の状態を共有し、リハビリパンツやオムツなど本人の状態に応じた適切な用具を使用し、排泄の自立に向けたケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症が酷く、対応について悩んでいた。ある医療機関で相談したところ、新しい下剤(安全、併用可能)を紹介され、多数の方が改善された。中には下剤を減らさないといけない人がおり、主治医と連携して対応中。下剤使用については、「入居者様下剤情報」で共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている。	毎日入浴ができる状態にして準備しており、入居者は週2回を基本として入浴している。入浴時は3種類の入浴剤を使用したり、入居者の好みの音楽を流すなど、入浴を通して楽しみが持てるよう工夫している。入居者の希望に応じて同性介助にも対応できる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の習慣や症状・状態に合わせた支援を行い、安心感が持てて、生活できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、主治医の指示に従い、服薬後は様子観察等を行い、本人の状態把握に努めている。通院時に主治医へ状態を伝え最適な状態になるよう連携をしている。下剤については、「入居者様下剤情報」で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、洗濯物たたみや新聞折り等の作業や趣味活動を取り入れ、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年からCOVID-19の影響でおよびグループ合同の行事や島原半島GH風船バレー大会が中止となり、戸外は通院が主となった。室内ばかりでは気持ちが晴れないので、施設車両でドライブに行ったり、施設周辺を散歩したりしている。	ドライブを通じて季節の花見だけでなく、本人にとっての馴染みの場所に寄るなど外出の機会を設けている。好天時には、入居者が近隣の寺院まで散歩し参拝するなど、コロナ禍であってもホームに閉じ込められないよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を持たれている方はいない。必要な時は、施設の仮払金から対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っている。COVID-19対策で面会規制が続いている為、Zoomを使った面会を実施中。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者の方々・職員がアクティビティワークで作成された物で少しでも季節が分かるよう飾りつけ、暖かい雰囲気を作っている。玄関等には、時期に応じた飾りをしている。	共用空間の清掃は職員による担当制で掃除機やモップを使用し毎日行っており、ホーム内の清潔保持に努めている。職員は入居者と一緒に季節の作品を作成し、共用空間の壁面に飾り入居者の楽しみに繋げると共に季節を感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。入居者様の状況に応じ、席替えやテーブルの配置を変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている。	共用空間と同様、職員による担当制で掃除機やモップを使用して清掃し、居室は清潔に保たれている。看取り支援が必要な場合はこれまで使用していた居室を継続して使用することができ、入居者が馴染みの居室で穏やかに過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の適正に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている。		